

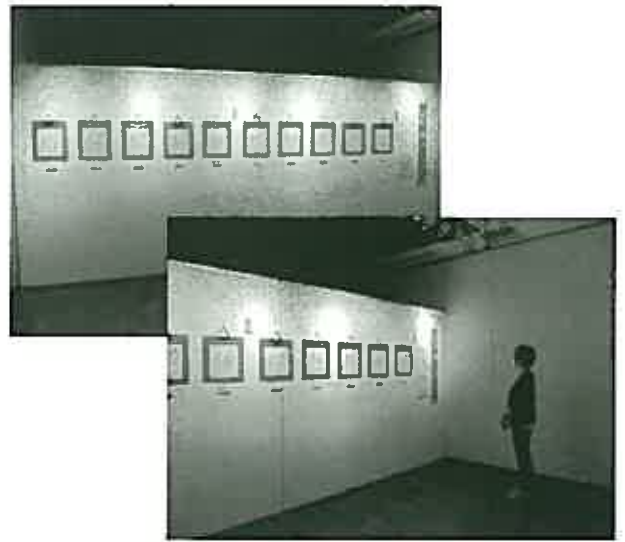
郷土博物館・文学館だより

第20回 渋谷現代短歌募集 優秀作・佳作発表

渋谷は、明治時代から多くの文学者が住んだほか、近代短歌の発展に貢献してきた雑誌『明星』や『アララギ』が発行された、短歌にゆかりある土地です。このような渋谷の文学風土を継承し、多くの方々に渋谷を再発見していただく機会として、当館では毎年「渋谷」を題材にした短歌を募集しています。

今回で20回目となった令和元年度は、31名より105首の応募がありました。入選作品は例年4月に展示を行っておりますが、今年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴い、当館が5月まで休館となったため、色紙に書写された入選作は6月2日から14日にかけて展示しました。

令和2年度は、10月から与謝野晶子に関する特別展を企画しております。



特別展示室の様子

第二十回渋谷現代短歌く優秀作・佳作く

國學院大學名誉教授 豊島秀範選

〔優秀作〕

同郷の夢二はここに住いしか

賑わう町にぼつんと碑立つ (市河原雅子)

颯爽と公園通りを闊歩する

5歳の息子は渋谷区育ち (椛澤かほる)

ビル街を循環バスは右折して

晶子の住みし道玄坂へ (木原 昭子)

昔むかし川がつくりし谷間に

高層ビルがいま山を成す (原 直史)

フラスコが「初めまして」と伸ばす手は

渋谷駅への連絡通路 (吉田のぞみ)

〔佳作〕

ことしまたふたりの孫と手をつなぎ

青の洞窟通り抜けたり (赤野 貞子)

もみじ葉の縁取る秋の渋谷川

落葉は海を示して流る (牛尾小夜子)

八千公の像の広場の空狭し

超高層ビルまた増えゆく (大熊 順三)

台風の間までとまどう渋谷駅

今日の通路は迷路のような (竹内 貞雄)

刻古りし「代々木八幡宮」の碑に

しだれ桜のくれなゐの風 (吉田 恭子)

街中に残る昭和初期の町名

街を歩いていると、ときどき、おや？と思う地名らしきものに出会うことがあります。例えば、恵比寿駅から用賀行のバスに乗ると、すぐに「下通り五丁目」という停留所につきます。周りを見てもここは恵比寿南三丁目。それに「下通り」ってどの通り？という話になりそうです。

もうおわかりでしょうか、この付近は昭和45年まで「下通～丁目」という町名が使われていました。そして「下通り」とは、停留所のある駒沢通りから明治通りの一部にかけての通称でした。この旧町名は、昭和3年（1928）の渋谷町の字名地番改正事業によって生まれたものです。

渋谷区は、昭和7年に渋谷町・千駄ヶ谷町・代々幡町が合併して成立しました。このときに区内に新たな町名が誕生しますが、それに先立つこと4年前、渋谷町ではすでにこうした事業が施行され、町内の地名はすっかり変わっていました。

こうした事業を早くから行った大きな理由の一つに、当時の街の急激な発展があります。人口が著しく増加し宅地化が進む中で、従来からの複雑にして錯綜した字（あざ）などの地名や地番が、生活の上で不便なものになってきました。それを解消するため、大正15年2月、町議会の議決を経て改正事業のための委員会が立ち上げられ、事業が本格的にスタートしました。

町名（正確には字名）を決めるにあたっては、街の人々の意見も尊重し、委員会で何度かの改正案が出されました。その際の方針で注目したいのは、町名の区域割りにあたり二つの方式を

併用し、商業地域は路線式としたことです。路線式とは主要道路の左右に交互に地番をふって町域としたもので、さきほどの「下通（り）五丁目」もその一つです。この方式で作られた町名は、「上通」「恵比寿通」など数多くあります。ちなみに『渋谷町字名地番改正誌』によれば、「下通」とつけた理由は、「上、中通トノ関係上、下通ト為ス」ですが、「上通」の理由も「中、下通トノ関係上、上通ト為ス」で、「中通」も同様であり、ほとんど説明になっていないのがおもしろいところです。そしてここから「下通り」などの通りの名前は、このときに便宜的につけたものであることがわかります。

この事業で成立した町名は、歴史的な由来をふまえながらも、さきほどのような例、あるいは景色がよいから「景丘」といったものもみられます。こうして昭和初期に66の新たな町名が誕生しました。

なかなか興味深い名前の多かった旧渋谷町域の町名ですが、戦後の昭和30年代から進められた住居表示事業により、残念ながら40年代までにその多くが姿を消してしまいました。



「下通り五丁目」停留所

壺井栄と戦後の渋谷

代表作『二十四の瞳』で知られる壺井栄（旧姓・岩井）は明治32年（1899）、香川県小豆郡坂手村（現・小豆島町）に醤油樽職人の五女として生まれました。蔵元の倒産により困窮した一家を支えるため、栄は内海高等小学校を卒業後、大正3年（1914）から郵便局や役所に勤務します。栄自身は「私は文学少女ではなかった」と回想しますが、祖母が語る様々な語りを聞いて育った幼少期のほか、教員の兄から送られる雑誌や自身の給料で購入した文学作品による読書体験を積んだこと、地元の同人誌「白い壺」に投稿していた経験などが、のちに栄作品の土台になったと考えられます。

大正14年（1925）栄のもとに、千葉県に逗留していたアナーキスト詩人・壺井繁治から、遊びに来ないかという内容の手紙が届きます。繁治は栄と同じく小豆郡の出身で、郷里に居た頃から文学を好む同士として文通をしていました。些細な縁でしたが、栄は職場を退職して上京し、そのことを知った繁治は銚子市君ヶ浜の砂浜で栄にプロポーズします。二人は東京で新婚生活を始めますが、以降は都内で転居を15回繰り返すことになりました。

昭和2年（1927）に無政府主義からマルクス主義に転換した繁治がテロ被害に遭い、重傷を負ったことを契機に、壺井家は翌年、代々幡町幡ヶ谷（現・渋谷区幡ヶ谷）に5回目の転居をします。現在の京王線初台駅の近くにあった家屋には、壺井夫妻と当時同居していた栄の妹

2人（のちに帰郷）、さらに栄が自身の子として育てていた姪の5人が生活しました。その後は区画整理に伴って代々木初台町（現・渋谷区初台）へ移り、6年に淀橋区（現・新宿区）に転居するまで、一家は約3年半に渡って渋谷で暮らしています。

栄と妹たちの実生活を題材にした「渋谷道玄坂」（1947）では、主人公・ミネが妹たちと終戦後、渋谷駅から道玄坂を歩きつつ、自身と妹たちの結婚生活について思い巡らす様子が描かれます。妹たちが学生だった戦前、姉妹は「赤と青のネオンサインに彩られた」夜の道玄坂を散歩し、都会の華やかさを感じていました。しかし思い出の渋谷は焼け跡となり、ミネは渋谷駅前と道玄坂、そこに建ち並ぶ小さな商店を見て「人間の理想が根こそぎくつがえされて、もみくしゃになったような統一のない風景（中略）何一つ心を高鳴らすことのない不気味な風景」と感じます。登場人物の一人、千枝は栄の末妹がモデルで、彼女は学生時代の一時期を、かつて渋谷にあった常盤松高等女学校で過ごしたことがありました。渋谷駅周辺の風景を見て「何にもないわ。ひどいわね。何にもない。」と嘆息する千枝の言葉に、当時の惨状を想像することができます。



昭和20年の渋谷駅前
（所蔵：朝日新聞社）



文化財紹介

「本村隧道」

所在地 本町1-60

撮影 昭和四十三年頃

本村隧道は、首都東京の飲料水を確保することを目的として造られた、玉川上水新水路に付随する施設でした。現存する鉄筋コンクリート造りとしては、区内で最も古い建造物のひとつです。

新水路は、和泉村から淀橋浄水場まで築堤で造る計画で、幡ヶ谷村などを南北に分断してしまつたため、一から十六号までの橋と本村（本町）、本町（下村）、笹塚（北笹塚）の三か所に隧道が設置されたのです。

三か所の隧道のうち、和泉村に近い笹塚隧道は、現在の中野通と水道道路が交わる場所に設けられ、明治二十六年（一八九三）九月九日に着工し、十二月二十五日に竣工しました。笹塚隧道は、関東大震災によって水路敷が沈下し、北側の水路堤防が長さ約十八mにわたって崩壊し、廃止されてしまいました。

本町隧道は、現在の帝京短期大学付近、本村隧道は、本町図書館付近に設けられ、明治二十六年四月十四日に着工し、七月二十日竣工しました。

このうち、本町隧道は道幅が狭く、昭和五十年に隧道は廃止され、東側に延長二十六m、全幅七、二m、有効高二、五mの隧道を新たに設けました。

三か所の隧道のうち、唯一当時の姿を保つのは、本村隧道だけとなります。その延長は、二十六m、全幅四、五m、有効高は三、四mです。

本村隧道は、南北に洗い出しのコンクリート仕上げとした飾柱を用い、そこにフルティング（縦溝）と、ドリア式（莊重）の柱頭を重ねる凝った意匠を施しており、パルテノン神殿の柱を彷彿とさせます。このように、荘厳な印象を見るものを与える隧道建築は珍しく、貴重な文化財であります。

【今後の展示予定】

- ◆企画展「昭和」という時代
8月16日（日）まで
- ◆企画展「写真展 玉川上水のむかしと今」
8月22日（土）～10月11日（日）
- ◆特別展「与謝野晶子と文芸誌
—「明星」から「冬柏」まで—
10月20日（火）
～令和3年1月11日（月・祝）
- ◆企画展「渋谷の紙」（仮）
令和3年1月19日（火）～3月21日（日）

白根記念 渋谷区郷土博物館・文学館

SHIBUYA FOLK AND LITERARY SHIRANE MEMORIAL MUSEUM

開館時間 ◆ 11:00～17:00（入館は16:30まで）

休館日 ◆ 月曜日（休日の場合はその直後の平日）・年末年始

入館料 ◆ 一般:100円(80円) / 小中学生:50円(40円)

※()内は10名以上の団体料金

※60歳以上の方、障害のある方と付き添いの方は無料

お問合わせ ◆ 東京都渋谷区東4丁目9-1 TEL:03-3486-2791

郷土博物館・文学館だより vol.44
令和2年8月1日発行